



義務教育学校 第9学年
 第30号
 令和元年 6月28日発行
 タイトル
 技術部生物部門有志



『見逃し三振より、空振り三振』

9年 副担任

9年生は現在、体育の授業でソフトボールに取り組んでいる。かつて、私も皆さんと同じように体育でソフトボールの授業を受けた。ある日のこと、満身にキャッチボールも出来ない私が、その場のノリでピッチャーマウンドに立つ事になった。ウインドミルで球が投げられるはずもなく、暴投を連発。フォアボールで満塁からの、さらに押し出しで敵チームに1点を与えてしまったことがあった。非情にも、ピッチャーの交代が宣告された。マウンドを降りることになった私は、味方からの大ブーイングと、敵からの割れんばかりの拍手喝采に包まれ、意気揚々と「敵ベンチ」に帰った。私は、球技がとても苦手だ。

さて、そんな私が大学生になった頃、部活の先輩方に連れられバッティングセンターに行くことになった。球技が苦手な私にとっては「バッティングの何が楽しいのか。」と陰鬱な車中だった。

バッティングセンターにつくと、まずコインを買い求める。これをバッターボックス内にある機械に入れると、20球だったか25球だったかの球がピッチングマシンから放たれるという仕組みだ。私は、コインを購入せず、豪快にスイングする先輩方を観戦して楽しんでた。

店に入ってからしばらくした頃、先輩が声をかけて下さった。「なんでやらの?」「球技が苦手なので、先輩方を観戦している方が楽しいです。」「せっかく初めて来たんやから、そんなこと言わないと、メダル一枚やるからやってみな!」と言って、私にメダルをくれた。どうせやるならばと、無謀にもそのお店で一番球速の速い(確か、150km/h だったと記憶している。)バッターボックスに立つ事にした。

いざ一球目、液晶に映し出されたピッチャーが振りかぶる。次の瞬間、信じられないスピードで球が飛んできたかと思うと、バスン!と鈍い音がなり、すでに球が足下に転がっている。全く反応できなかった。二球目、やはり速すぎる。またもやバットを振ることすら出来ずに見送り。三球目、先輩から「**振れ!とりあえず振ってみろ!ただ見てたって意味ないぞ!**」との声。だが手は出ない。やっと四球目から手が出たものの空振りの連続。結局、私の記念すべき初打席は、最後の一球でやっとチップするという残念なものであった。しかし、なまじチップしたことで、「もしかしたら、自分にも打てるのでは?」そんな気持ちになった。気づけば私はメダル販売機の前で「1000円=5枚」と書かれたボタンを押していた。

変化があったのは4枚目のメダルからだった。打球が前に飛ぶようになった。そして5枚目、ついにピッチングマシンの奥のネットを揺らすことに成功した。(一球だけだったが…)、なんととも言えないスッキリとした気持ちになった帰宅の車中であつた。

閑話休題、この時から私の人生におけるモットーは、「**見逃し三振より、空振り三振**」である。

球技の苦手な私はこのとき、なんとか150km/hの球を(一度だけ)打ち返すことに成功した。これは、先輩の「**振れ!とりあえず振ってみろ!ただ見てたって意味ないぞ!**」という言葉無くしてはあり得なかったと思う。三球目までの私は、まさに「見逃し三振」の状態だ。バットを振らずにボールを打ち返せるはずがない。四球目以降、私は当たらなくても思い切りバットを振り続けた。この「空振り三振」の状態がチップにつながり、このチップは、到底無理だと思っていた150km/hの球を打ち返すことにつながった。「万の一つもボールを打てない」と、「万の一つはボールを打てる」では大きく違うのではないだろうか。

そしてこれは、野球に限った話ではないはずだ。人生における何か重要な課題に直面した時、「万の一つも成功しない」か「万の一つ成功する」かを、選ぶならば、私は後者がいい。「**見逃し三振より、空振り三振**」を選びたい。

もちろん、思い切って「空振り三振」をし続けた結果が成功するとは限らない。だがきっと、何もしなかった「見逃し三振」で失敗するより、思いっきり「空振り三振」で失敗した方が、後悔は少ない気がする。そして、その「空振り三振」は、きっと無駄にはならないと信じている。



○生徒の活動の様子

～高志中学校との交流会(6/4)～

総合的な学習の時間に附属で行われている学P、高志中で行われている高志学。それぞれが、これまで3年かけて積み上げてきた学びを交流し合う、素晴らしい会が開かれました。

まずは全体の場で、両校の代表生徒が「学Pとは」、「高志学とは」というガイダンスを行ってくれました。次に小グループに分かれ、自分達個人での学びを共有しました。最後は「これからの福井に必要な力」、「これからの自分達に必要な力」など様々なテーマが代表者から提示され、小グループごとに自分達のテーマを設定し、協議しました。両校にとって非常に有意義な時間になりました。



～音楽集会(6/6)～

音楽集会が行われました。後期課程だけではなく、前期課程の5・6年生も参加し、盛大な会となりました。7年生は「音と音楽の違いは?～サウンドスケープによる創作～」、8年生は「百人一首の世界を音楽で表そう」、9年生は、福井市連合音楽会で演奏する『ぜんぶ』を歌いました。どの発表も素晴らしかったです。会の最後には、全員で『Believe』を合唱しました。附属の音楽文化を、後輩達にしっかりと示すことができました。



～福井市連合音楽会(6/13)～

ついに当日を迎えました。本番直前、最後の練習を終えての音楽委員長の「この仲間だからこそ、ここまで来ることができたのだと思う。ありがとうございます。」というスピーチは、仲間に対する信頼と感謝があふれた素晴らしいものでした。音楽委員長の言葉通り、9年生が丸となって創り上げてきた『ぜんぶ』、『Gloria』は、まさに圧巻の一言でした。



○連音を終えての感想

○音楽委員長		A組	
<p>連音練習の時間は今までと比べてだいぶ少なかったけれど、みんながスムーズに動いてくれたり、準備をしてくれたりしたおかげで中身の濃い練習にすることができました。本番の演奏でも、練習の成果が出せたと思います。本当にありがとうございました。</p>			
○伴奏『ぜんぶ』 A組		○伴奏『ぜんぶ』 C組	
<p>歌と一緒に強弱をつけて弾いたり、途中のリズム変更があったり、とても大変でしたが、無事に終わることが出来ました。当日は、とても楽しく弾くことができ、また、「大切なものはここにある」というメッセージを伝えられたかなと思います。</p>		<p>今回は、ピアノ2台の伴奏だったので、合わせるのが大変でした。その分練習した甲斐あって、本番に全力を出し切れたときの達成感は大きかったです。全員で一つになって音楽をつくるという貴重な場で、伴奏者として関わることができ、とても良い思い出となりました。</p>	
○伴奏『Gloria』 A組		○伴奏『Gloria』 C組	
<p>この学年の色で音楽を創っていこうというみんなの一つの方向に向かう思いが連音で出せたと思う。メロディーを紡ぎ出してピアノの和声にのせて聴衆に迷い無く届けられたということがうれしかった。点数をつけないことで、どの学校も表現が特徴的だったと思う。音楽の良さをまた一つ学んだ気がした。</p>		<p>今回は初めての2台でのピアノ伴奏だったので、今までとはまた違った難しさがありました。でも、2人で合わせるということでテンポや音の強さを今まで以上に意識して弾くことになり、とても良い経験になりました。ありがとうございました。</p>	
○ソリスト(ソプラノ) C組		○ソリスト(アルト) B組	
<p>私は7年生の時に先輩達の『Gloria』を聞いてとても感動しました。合唱部でソプラノだった私はソロに強い憧れがあったので、今回ソリストとして連音で歌えてすごく嬉しかったです。本番ではみんなと一緒に『Gloria』を歌い上げることができ、この学年の良さを伝えることが出来たと思います。</p>		<p>『Gloria』のソロを歌うことが、私が合唱を始めたときからの夢でした。本番では自分の最大限の力を発揮出来たらいいと思っていましたが、できなくて、自己管理が足りてなかったなと思いました。でも9年生の歌声が文化会館中に響いていて「心に響く音楽」を創り上げることができたと思います。</p>	
○ソリスト(テノール) B組		○ソリスト(バス) B組	
<p>連音を終えてみて、まず個人的には代々受け継がれてきた『Gloria』のソリストをやらせていただくことができて嬉しかったです。全体としても一番良い演奏を本番で出来たと思っているので素晴らしい連音になりました。ありがとうございました。</p>		<p>僕は、連音を振り返ってみて、『Gloria』は歌い継がれている曲なので、今までより一番良いと言われるようにソロとして皆に声が届くよう頑張りました。『ぜんぶ』と『Gloria』を歌って附属の9年の音楽を伝えることが出来た。</p>	

～学校見学会、福大ラウンドテーブル(6/22)～

県下の小学生を対象に学校見学会が開かれました。1限目の時間にはオリエンテーションが行われていました。2時間目の授業見学では、小学生に普段の授業の様子を見てもらうことで、附属の授業の魅力を発信出来たと思います。3限目には実際に授業体験も行われました。

午後からは福大ラウンドテーブルが行われました。ラウンドテーブルおよびポスターセッションでは、全国から訪れた様々な年齢、立場の人々に附属の魅力を伝えてくれました。



A組は英語の授業



C組は社会の授業



B組は音楽の授業



授業体験の様子



テーマ：「学びを通して地域と
どう関わっていくか」
他中の生徒、福井大学の学生、
附属のOB達と語りました。



ポスターセッションの執行部ブー
スおよび音楽委員会ブース